

キャラクターブランド 20—40代男性客 開拓

ルースヒースガーデン社長 奥出 えりか 氏



市場をつくる

ルースヒースガーデン（横浜市保土ヶ谷区）はウェブデザインなどを手がける新興企業。オリジナルキャラクターブランド「テトラスマイル」をシンブルで上質な日用品などに展開している。デザインとデジタルの融合を掲げ、最新技術でオンラインの商品制作にも取り組む。「キャラクターの世界観を日常生活に展開して、大人のくつろぎ空間を演出したい」と社長の奥出えりかさんは目を輝かせる。

— 事業内容は。

「ウェブやグラフィック

クなどデザイン業務全般を手がけている。特に『テトラスマイル』は動物をモチーフにした親しみやすいキャラクター。

キャラクターの世界観をシンブルさを基調にしたモダンなマグカップやTシャツ、スマホケースな

どに展開している」

— 主なターゲットは。

「テトラスマイルは二つの顧客層がある。20—40代の男性と30—50代の主婦。特に20—40代の男

性は生活にこだわりがあり、ちよつと良いものを持ちたいというニーズがある。ただ、この顧客層が身につけられるキャラクターものはあまりない。ここを開拓したい」

— どう拡販しますか。

「今まではウェブサイトや参加交流型サイト（SNS）などの販売が中心だったが、8月に



デザインとデジタルの融合を掲げ、レーザーカッターで本物志向の革製品などを製作

上質な日用品 デジタル技術で

横浜赤レンガ倉庫で開かれた『あ〜ていすとマーケット』に出展した。ターゲットとする男性客が興味を示してくれた。顧客との対話を通じ、情報収集もできた。今後の商品設計に生かしたい」

— デジタル技術との融合に積極的ですね。

「デザインにITや最新の印刷技術、製造技術も難しくない」

— 今後の展望は。

「商品を通じて『場所を設計していきたい。デザインとデジタルの融合を掲げ、レーザーカッターで本物志向の革製品などを製作したい。私たちの日常生活の中に反映していく。変化する革製品を製作した形、インクジェットプリンターやデジタルスクリーン製版機でカスタムオーダーのTシャツを製作している。デジタルメディアの技術は目まぐるしい進歩と発展を遂げている。新たな可能性の実現も難しくない」

幼なじみと二人三脚

創業は2013年。慶応大学大学院でデジタルメディアによる作品制作やビジネス創出を学び、修士課程修了後の25歳で起業した。従業員は奥出さんを含めて2人。小学生からの幼なじみで女子美大でデザイナー活動を経験していた植田えりかさんと共同で立ち上げた。



奥出さんは全体統括とウェブ制作を、植田さんはイラスト・デザインを担当。植田さんも「クリエイターが仕事をできる環境も作りたい」と話す。デザインとデジタルの融合で新しいモノづくりの形も描いていく。